

## 福島原発行動隊 第24回院内集会挨拶

塩谷亘弘・理事長代行

本日はお忙しい中お集まりくださり有難うございました。

山田理事長は先週15日に、2度目の手術を無事に終えて、現在は病室に戻って回復に努めているとの連絡がありました。ご安心ください。

さて、本日の集会に川内村の遠藤村長をお招きして、川内村の現状と課題についてお話して頂きます。

福島原発行動隊はお手元の資料に定款を抜粋してありますように、事故収束に直接参画することを目標に掲げて集まった団体です。未だに、1Fの現場に入って若い世代の被ばくを軽減するために作業するという目的を達成していません。しかし、放射性物質で汚染しているという点では1F構内も所謂被災地も程度の差はあるにしろ質的には同じです。被災地も事故現場の一つです。その意味で被災地・被災者支援も我々の事業の一つと位置づけられます。川内村での私たちの支援事業もその一つです。川内村との交流の経緯はお手元の資料にありますのでそれをご覧ください。

私は、2週間ほど前に福島市内のある児童養護施設の除染のお手伝いに行っていました。園長先生が、「こうして児童のために除染をしていただいている時でも、何時また事故が起こるかも知れないと思うと、児童の安全をどう確保したらいいのか途方に暮れる」という意味のことを仰っていました。皆様、ご存知のように、新聞・テレビで報道される東電の事故収束作業にはいろいろの問題が発生しており、被災地・被災者に大きな不安を与えています。私たちは国が事故収束から廃炉に至る全過程に責任を持って当たることを提言していますが、まだ聞き入れられてはいません。

今日は、遠藤村長から直接お話を伺うことによって、被災地の状況を皆様がより身近に感じ、それを行動隊の目標を実現するためのエネルギーに変えていただけたらと考えています。